



福岡市美術館

開館時間 9時30分～17時30分

※10月の土曜時まで入館は無料の30分前予約

休館日・月曜、また11月19日（月）は臨時休館

20日（火）開館日、21日（水）臨時休館

11月23日（月）は臨時休館し11月24日（火）は休館

観覧料 一般 1,000円（1,600円）

高校生 1,000円（1,000円）

中学生以下 無料

※10月19日（土）～20日（日）は臨時休館し11月24日（火）は休館



FaN
Fukuoka Art Next

インド更紗

世界をめぐる物語

Chintz A Global Story: The Karun Thakar Collection

2026
10/17 sat
12/20 sun
福岡市美術館
FUKUOKA ART MUSEUM



インド更紗世界をめぐる物語

カルン・タカールコレクション

Chintz A Global Story: The Karun Thakar Collection

2026
10/17 sat
12/20 sun
福岡市美術館
FUKUOKA ART MUSEUM

カルン・タカール・コレクション インド更紗 世界をめぐる物語

木綿に藍や茜で複雑な文様を色鮮やかに染め出した染織品である更紗。

インドで生まれた更紗は世界の人々を魅了し、東南アジアやヨーロッパ、日本など世界をめぐる貿易品となりました。

本展では、世界屈指の染織品コレクターとして知られるカルン・タカール氏のコレクションを中心に、

インド更紗が世界的な商品となって、各地の生活に受け入れられていく様子を時代を追って紹介します。

インドの神々をおおらかに描いた布から、世界各国の美意識を反映した華やかな布まで優品の数々をお楽しみください。



《白地人物草花文様更紗礼用布》
Hanging
17-18世紀

1 インド地域の更紗 Indian regional market goods

本章では、神々や供養者の姿をあらわした作品を紹介します。インドの人びとの祈りを反映したこれらの作品は貿易品というよりは地域の人びとの求めに答えるために作られたものでしょう。《白地マニッカヴァカカル物語図更紗掛布》は7.7mもある長大な布に40を超える物語場面が描かれており必見です。

《白地マニッカヴァカカル物語図更紗掛布》(部分)
Narrative hanging
18世紀



本章では、当初は香辛料取引のための通貨がわりであった更紗がヨーロッパの人びとの心をとらえ、魅力的な作品が生まれ出されていく様子を紹介します。ヨーロッパの人びとが特に好んだのは鮮やかな色彩で花文様をあしらった更紗で、壁掛などの室内装飾や服飾に用いました。

ヨーロッパ向けの更紗 European export and luxury trade

《白地草花文様更紗幼児用上衣》
Child's costume
18世紀



《草花文様更紗幼児用帽子》
Hat for girls
18世紀

《白地立木形花樹文様更紗掛布(パランポー)》
Wall- or bed-hanging
(palampore)
1740-60年頃



《ラフ神文様更紗上衣(サー・セナク)》
Soldier's tunic
(sari sena kur)
18世紀後半

本章では、主にインドネシアやタイなど東南アジアへ向けて制作された更紗を紹介します。寺院の内部を飾る祈りの布はもちろん、身につける衣服も揃っており、更紗が人びとの生活に受け入れられていく様子もうかがうことができます。

初期アジア貿易の更紗 Early trade within Asia



《白地人物文様更紗礼用布(マア)》(部分)
Ceremonial cloth (ma'a or mawa)
1450-1650年頃

《白地太陽文様更紗礼用布(マタハリ)》(部分)
Ceremonial cloth (mata hari)
18世紀後半あるいは19世紀

更紗(ざらざ)とは

更紗とはインドで始まった、茜や藍などを用いて木綿の布を染めたものをいいます。洗っても色落ちせず鮮やかな色を保つ木綿の布は、大胆かつ繊細な文様の魅力とあいまって、世界の海を駆け巡る貿易品となりました。

グローバルに展開した更紗はやがて、それぞれの地域でローカル化していきます。インドやヨーロッパで作られた更紗が日本に輸入され、茶道具を包むための布として用いられていることはその象徴的な例です。本章では、更紗が世界各地で独自の展開をとげる様相をたどります。

デザインのグローバル化とローカル化 Globalisation and localisation of design



《高麗南浜茶碗付置 更紗包紮》(前期展示)
Wrapping cloth for the tea bowl, amamori type
17-19世紀 福岡市美術館蔵



《黒地蘭文様更紗裂》
Fragment of chintz
18世紀



《草花文様更紗ベッドセット》
Complete bed set
18世紀



Photo by Desmond Brambley

カルン・タカール
Karun Thakar

カルン・タカールさんは、イギリス在住の染織品や工芸品のコレクターです。特にインド更紗のコレクションは、個人のコレクションだけでなくその歴史をたどれるほどの稀有なコレクションです。

【関連事業】

カルン・タカール氏トークイベント「わたしのインド更紗コレクションと本展について」
日時=10月17日(土) 14:00~15:30(30分前開場) 会場=1階ミュージアムホール
講師=カルン・タカール氏/岩永悦子(福岡アジア美術館 館長)
定員=180名(先着順) ※聴講無料

講演会「インド更紗—グローバルなデザイン、ローカルなプロダクト」
日時=11月21日(土) 14:00~15:30(30分前開場) 会場=1階ミュージアムホール
講師=岩永悦子(福岡アジア美術館 館長) 定員=180名(先着順) ※聴講無料